

1 はじめに

熊本県境の出水市で4年間の初任校勤務を経て、宮崎県境の曾於市に赴任してから3年目となります。県境にあっても、鹿児島県中学校社会科教育研究会（以下、県中社研）の先生方から、さまざまな形のサポートと多くのご指導をいただけてきました。令和3年度当初、県大会における公開授業者の打診があり、勤務校や家庭内の協力、県中社研事務局の先生方にはワーク・ライフ・バランスに対する十分な理解いただき、授業者を引き受ける環境が整って、今日につながる貴重な経験をさせていただきました。本校の3年生は、入学後から現在にまで持ち上がってきた生徒たちです。それぞれの進路へ進む生徒たちにとって、卒業までさらに楽しく、今後役に立つ社会科をとの思いで公開授業へ向けた教材研究を行い、指導案検討会に臨んだことは振り返ればよい時間でした。これまで地域や県境観を題材にした地理学習、思考ツールを用いた授業へチャレンジしてきましたが、毎回、深まりといった点では力不足を感じておりました。そのため、鹿児島県の玄関口【末吉中学校】において実施する公開授業では、向学も兼ねて、特に次のことを意識いたしました。

- ① 主体的・対話的学びにより学習を深めるための思考ツールの活用
- ② 学びを深めるための地域素材の活用（曾於市、都城定住自立圏）

計画的な準備を目指しましたが、令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症対策のためのグループ活動の制限や、行事の延期等で単元の指導計画の入れ替えが発生しました。振り返りの報告に際し、このような社会情勢から、生徒が既に身に付けてきた方法を使って授業を構成したこと、「消費生活と市場経済」、「生産と労働」、「市場経済の仕組みと金融」、「財政と国民の福祉」、「これからの経済と社会」の5パートからなる経済単元は公開授業に向けて内容を入れ替え、「財政と国民の福祉」を先行実施したこと、政治分野「地方自治」の一部を、この学習の中での扱いを試みた点を予め御了解いただければと思います。

2 公開授業について

公開授業は、令和3年11月12日、3年生1クラス38名を対象に曾於市立末吉中学校体育館で実施した。以下は、公開授業の学習指導案をベースに、当日の資料等を挿入して再構成している。

(1) 単元 財政と国民の福祉（大単元 私たちの暮らしと経済）

(2) 単元について

ア 教材観

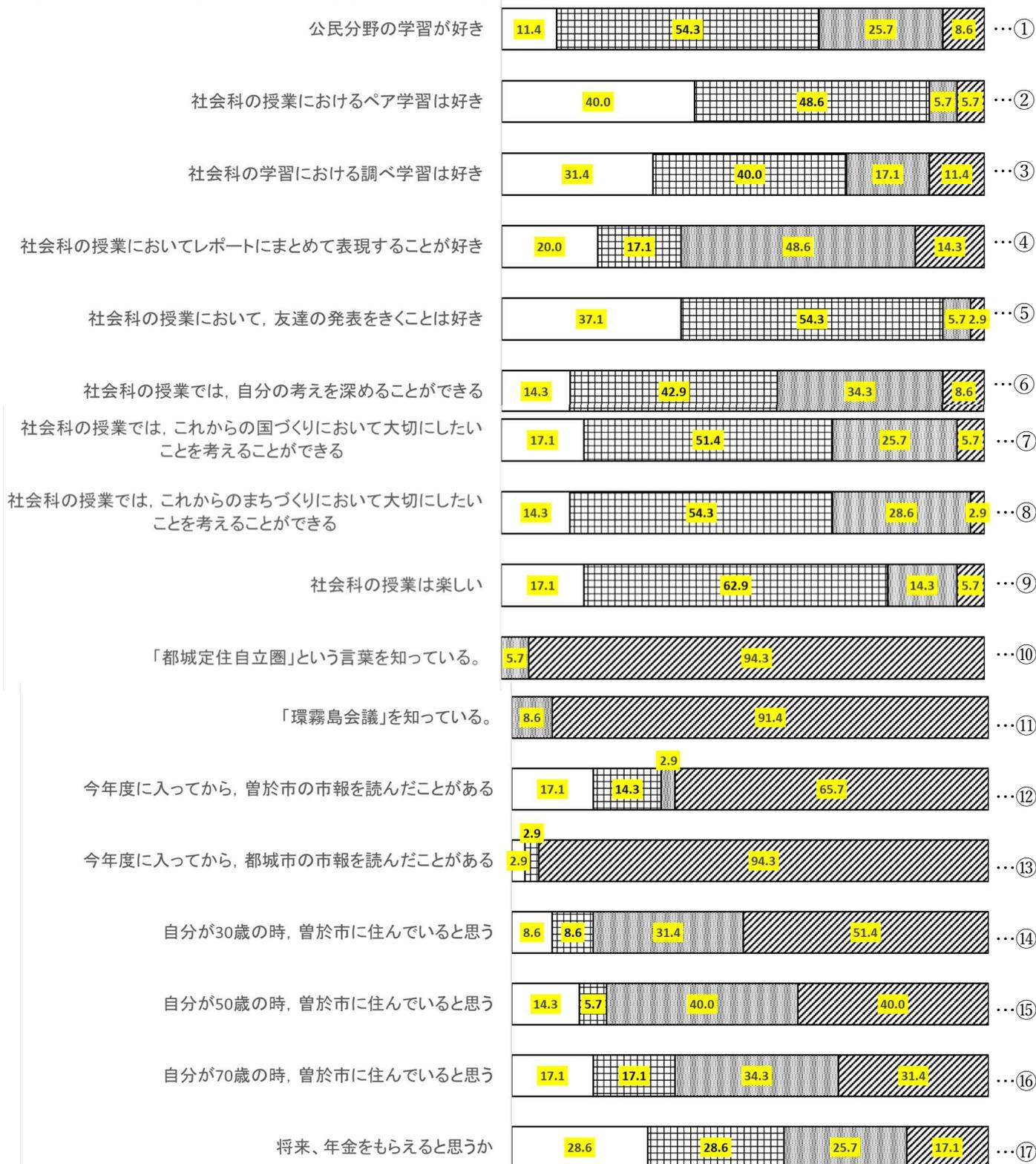
本単元「財政と国民の福祉」は、大単元「私たちの暮らしと経済」の第4節に該当し、主に国や地方公共団体による財政活動や社会保障政策の内容を取り扱う。その財政活動や社会保障政策を支える国民の税金と保険料は、少子高齢化の波を受け、社会保障関係費の増大と税収不足による財政赤字の慢性化という2つの課題を生み出している。さらに、2020年来の感染症に関わる対策や経済支援策、度重なる自然災害への対応などについて、国や地方公共団体の歳出のあり方を考えていかなければならない喫緊の課題も迫ってきている。こうした状況の中、現在のみならず将来にも関わる社会的な課題に着目して、本単元の学習を通して課題を理解したり、解決策を考察したり、構想したことをもとに議論したりすることは、学習活動に切実感をとめない、公民的資質を育む上で有効であると考えた。

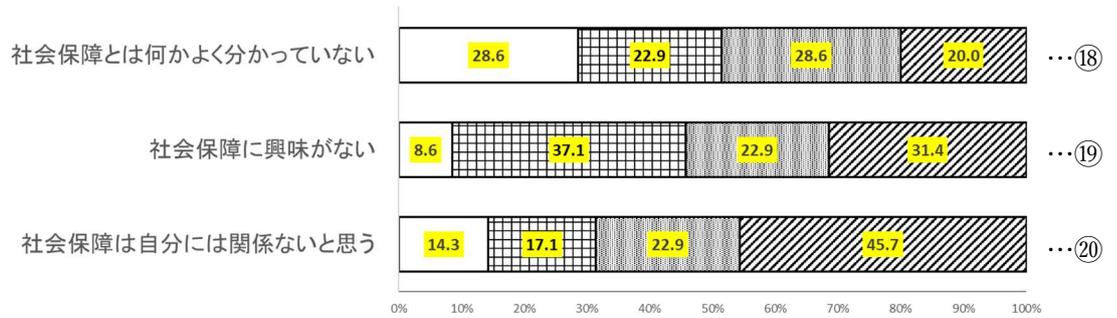
また、教材として国の財政に加えて、曾於郡旧大隅町・旧財部町・旧末吉町からなり、県東部に位置し

ている鹿児島県曾於市（人口 35,198 人，高齢化率 40.5%，年少人口 10.7%）を学習対象とした。曾於市が隣接する宮崎県都城市（人口 160,126 人，高齢化率 31.6%，年少人口 13.9%）とは，定住自立圏の形成に関する協定書を結んでいる。両市は，通勤・通学，買い物など生活圏としての結びつきが強い。事前に実施した生徒アンケートの結果を見ても，「都城市へよく行く」と回答した生徒が約 89%，「どちらかといえば鹿屋市より都城市によく行く」と回答した生徒が約 92%おり，曾於市を考える際，都城市は切り離せない関係であるということがわかる。そのため，学習にあたり，生活圏である都城市を関連させて取り扱った。

イ 生徒観

□よくあてはまる ■あてはまる ▨あまりあてはまらない ▩あてはまらない





事前にとったアンケートによると、グラフ①～③・⑤・⑥のように、本学級における生徒たちの社会科授業に対する興味・関心は高い。特にペアで情報交換する場面や情報をヒントに自分たちなりの答えを導く活動などは、意欲的、あるいは発展的に取り組む生徒が多い。その反面で、社会科を苦手とし、様々な学習活動の場面で消極的な生徒も少なからずいる。グラフ⑩～⑬からは、地域への政治的な関心が高いとは言えず、地域の課題やビジョンについて理解していないことが推察される。しかし、グラフ⑭～⑯のように、地域への愛着は希薄なわけではなく、進学や就職で曾於市を離れたとしても、将来的には地元でUターンしたいと漠然と考えている生徒が多いと推測する。また、⑱～⑳から、生徒たちは社会保障について深く知らずとも、自分たちのためになるものだろうと認識している様子が見えてくる。なんとなく認識している状態から、生徒たちが社会保障そのものに対して無関心となることを防ぎ、よりよい社会を形成していけるよう、知識を学ぶ機会と財政との関わりについて考える時間を設ける必要があると考えた。

ウ 指導観

「財政と国民の福祉」では、現在の日本、特に地方が直面している人口減少という課題に着目することは不可避である。これまで、授業で少子高齢化や人口減少について学ぶ中で国や地方の財政について触れる機会があったが、探求的な学習はできなかった。そのため、「財政と国民の福祉」を学習するにあたり、人口減少をキーワードに、生徒たちが国や自分の地域の状況について考えていくことができるような展開に努めた。具体的には、若者の転出を大きな要素とする人口減少が少子高齢化の状況を生み出し、さらなる過疎化の進行につながることで、曾於市域においては1990年からの30年間に1万人以上の人口が減少し、高齢化率が現在40%を突破していること、過疎化はどの地域でも起こりうることである。「財政と国民の福祉」についての学習に深まりを持たせるために、国と自分の地域を比較しながら、人口減少の状況を捉え直そうと試みた。それを踏まえて、少子高齢社会における財政について学習することで、社会保障制度に課題意識を向け、議論を深めるきっかけにしようと考えた。

そこで、本単元において、学習対象を曾於市と都城市に定め、生徒自身が広報誌等から入手できるデータを活用しながら学習活動を展開した。社会科への関心が高く、地域を見つめる観察眼が鋭い生徒が持つ課題意識を周りに波及させ、学び合う形で展開する学習活動を目指し、ダイヤモンドランキング等の思考ツールを用いることとした。

(3) 単元の目標

- ア 国民生活の向上と経済活動との関わりの中で、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、財政及び租税の意義について、個人と地域社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から財政に関する情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- イ 資料を読み取った上でそれぞれの世代に配慮している社会保障の充実・安定化、公平な社会の在り方について考察、構想し、表現できる。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ウ 地域の財政について関心を高め、学習したことをもとに考えを練り上げる中で、自分なりの意見を形成し、主体的に社会に関わろうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

(4) 単元の指導計画

時	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準等 ○「記録に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」
		知	思	態	
<p>学習課題 「少子高齢社会に対応できる歳出とは？」－国民の福祉にとって、なぜ財政が重要なのか－</p> <p>【ねらい】：少子高齢社会における財政のあり方について、資料を用いて現状を把握しながら、社会保障における受益と負担のバランスを考える。また、都城定住自立圏を構成する曾於市や都城市についても取り上げる中で、自主財源の確保の重要性や財政のはたらきもたらす有益性について理解する。</p>					
第 一 次 第 1 時	◇ 私たちの生活と財政				
	<p>本時の課題 「財政の仕組みについて理解し、税金の役割について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政の仕組みと税金の種類について理解する。 ・ 税金の役割と公平性、納税の義務を考察する。 ・ 納税の義務と国の一般会計予算の現状について考察する。 ・ 地方交付税交付金等について、教科書 114 ページの内容を参考に理解を深める。 	●	●	●	● 財政の仕組みと税金の種類について理解し、納税の義務がある理由について考察し、表現している。(ノート)
第 2 時	◇ 財政の役割と課題・社会保障の仕組み				
	<p>本時の課題 「国や地方公共団体の財政には、どのような役割と課題があるか考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府が供給する財やサービスを見付ける。 ・ 財政の役割、政府の財政政策と景気の関係について理解する。 ・ 社会保障制度について理解する。 ・ 消費税の役割を考える。 	●	●	●	● 社会保険の利点と課題を考察し、重要だと思う内容を表現している。
第 二 次 第 3 時	◇ 少子高齢化と財政 (1 / 3)				
	<p>【課題】「曾於市の少子高齢社会と地方創生に対応できる財政のバランスを考えよう」(3時間続き)</p> <p>【第3時～第5時のねらい】：少子高齢社会では、現役世代の負担増が懸念されている。地方財政をひっ迫させず、住みよいまちづくりを進めるための財政のあり方を議論させることで、家庭や地域で財政について話題にするきっかけ作り出し、公民的資質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曾於市の現状について、資料からわかることを読み取り、自主財源・依存財源(公債金)の割合や課題を確認する。(参考資料：国の一般会計予算、曾於市の人口、曾於市の予算) ・ 曾於市に占める依存財源の割合について考察し、自主財源の現状をつかむ。 ・ これまでの学習を通した、曾於市に関する振り返りを行う。(道路の建設 都城定住自立圏 周辺市町の人口 UIJ ターン説明会) ・ 生徒アンケートから把握した生徒の興味や曾於市が取り組もうとしていることから選んだ9つの項目について、調べ学習にとりかかる。 	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ● 歳入・歳出に関する円グラフを理解している。 ● 自分が暮らす地域について理解している。 ● 資料を活用し、積極的に調べ、メモを取ろうとしている。(ワークシート)

第4時	◇ 少子高齢化と財政（2／3） ・ 9つの項目について、調べ学習の続きを行う。 ・ 9つの項目について、曾於市にとって大切だと思う順にダイヤモンドランキング〈1-2-3-2-1〉で並び替えさせる。（A～Iの番号で書かせる）			○	○ 課題解決に向けた情報収集ができています。（ワークシート） ● 調べた情報を使い、活動に参加している。（ミニボード）
第5時	◇ 少子高齢化と財政（3／3）（本時） ・ 費用の視点から横軸上にA～Iを並び替える。 ・ 横軸に縦軸を加え、縦横にした座標軸上にA～Iを位置付ける。 ・ 縦軸の条件を変化させ、座標軸上にA～Iを再度位置付ける。 ・ 座標軸で変化したことをもとに、グループでダイヤモンドランキングを並び替える。 ・ まとめへ向け、他班の意見を聞く。			● ● ● ○	● 調べた情報を使い、意見を交換している。 ● ひとつ前の座標軸との違いを認識し、位置づけを考えている。 ○ 本時の活動を元に、課題解決に向けて思考を深めている。（ワークシート） ●
第6時	◇ 単元のまとめ ・ 前時までに定着していなかった財政に関する知識を補完する。 ・ これまでの学習を振り返り、曾於市の財政と国の財政に関するまとめ文を記入する。	●		○	○ 現在の財政状況と今後の展望を踏まえたまとめをしている。

(5) 本時の実際（5／6）

ア 主題 少子高齢化と財政

イ 本時の目標

- (ア) 財政が、人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを、圏域内の統計資料などの根拠をもとに理解できる。〈知識及び技能〉
- (イ) 財政の確保と配分という観点から、少子高齢社会の特色を踏まえて、財政の現状や持続可能性について意見交流できる。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (ウ) ダイヤモンドランキングや座標軸をもとに、財政に関する討議で交流し、財政の持続可能な社会の形成に生かすことができる部分を見出そうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

ウ 指導にあたって

本単元は、財政の仕組み・税金の役割・国や地方公共団体の役割と課題・社会保障制度の仕組みや消費税の役割を学ぶよう構成されている。地方財政（地方交付税・地方交付税交付金・地方債）は、政治分野で取り扱う内容であるが、財政・社会保障制度・少子高齢化と関わる内容であるため、本単元で扱うこととした。第3時から第5時（本時）の計3時間は、国や地方財政の知識を身に付け、それぞれの働きや役割について考察してきた生徒たちがそれまでに学んだことを活用し、さらに学びを深めていくことをねらいとしている。少子高齢化と財政の題材は、国の財政と社会保障制度との関わりの中で学ぶように設定されているが、今回は地方財政の実際を理解し、地域の実情を踏まえたこれからの考えていくことができる少子高齢化と財政の学習内容を意識した。そこで曾於市を題材に取り上げた。曾於市は県境をまたいで都城定住自立圏を構成していることから、地域づくりでは珍しいパターンである。また、国際バルク戦略港

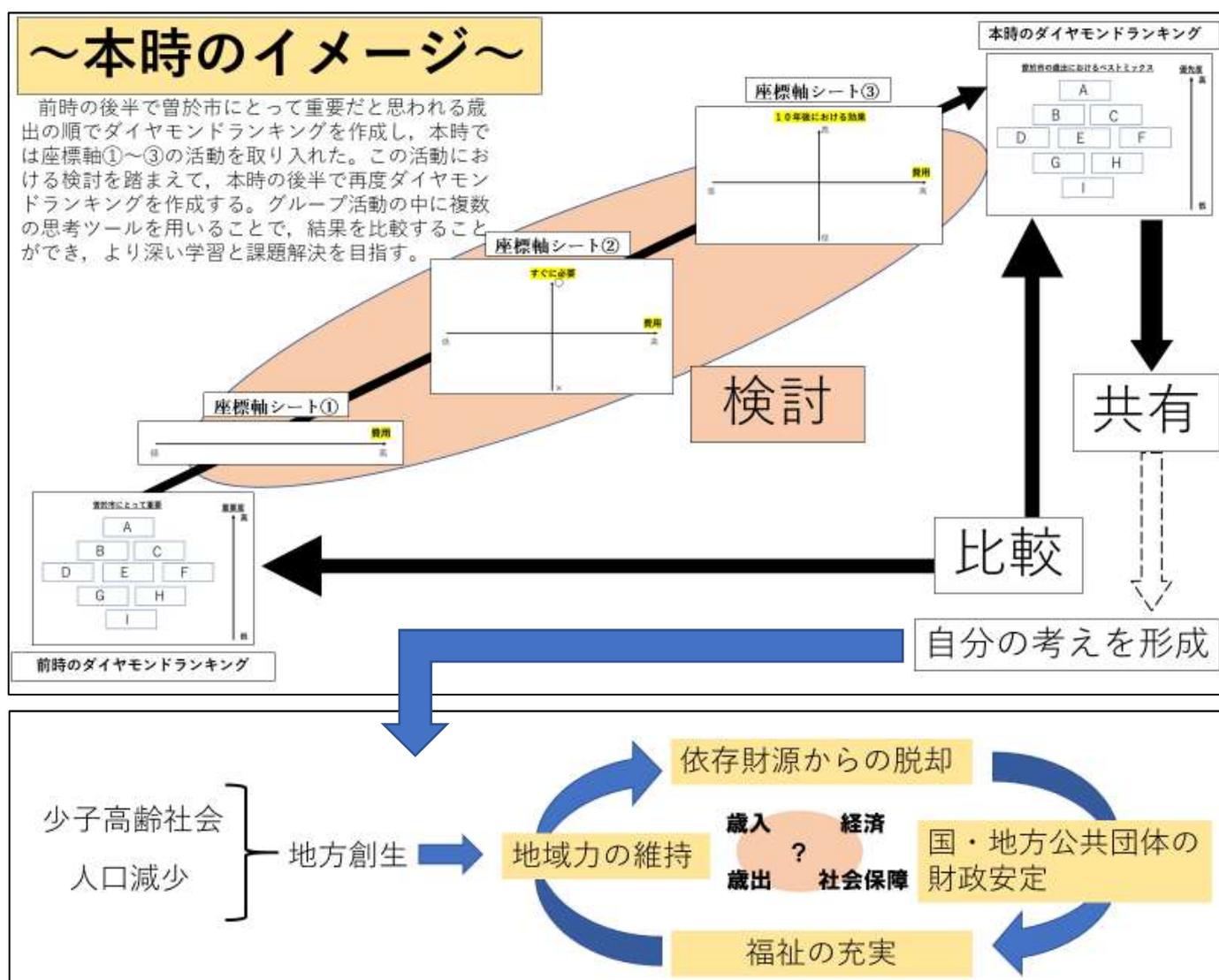
湾を有する志布志市に隣接し、地理的事情が畜産を盛んにする一つの要因となっている。地域の実態把握のため、隣接している自治体の特色や、曾於市が周辺地域よりも高齢化率が高い点に着目させたい。

指導するにあたり、少子高齢化は財政との関わりにおいて、自主財源不足の一因となること、税金や保険料の収入だけでは支えきれない社会保障制度は地方財政をひっ迫させていくことを全体で確認してから進んでいきたい。

エ 本時の展開

過程	主な発問や指示	学習活動	資料・指導上の留意点	情報提示
導入 5分 全体 (グループで開始)	○ 前回までの学習内容を確認し、本時の学習内容を確認しよう。	1 学習課題の確認	・ 前の時間に活用したワークシートを確認する。	前時に作成した <u>ランキング</u> (ミニボードのコピー)
	本時の課題 「曾於市の少子高齢社会と地方創生に対応できる財政のバランスを考えよう」			
展開 38分 グループ	○ 本時では、さまざまな角度から9つの項目を検証して、最後にもう一度ダイヤモンドランキングを作ろう。	2 学習の流れを確認する。	・ 展開で4つの短い活動を行うことを伝えておく。	
	○ グループを作り、費用の面から、横軸上に A~I を並べてみよう。	3 費用の視点から横軸上に A~I を並び替える。	・ 横軸は「費用：多い⇔少ない」とする。	<u>座標軸シート①</u>
	○ 縦軸を加え、座標軸上に A~I を並べてみよう。	4 横軸に縦軸を加え、縦横にした座標軸上に A~I を位置付ける。	・ 縦軸を「すぐ必要：○⇔×」とする。	<u>座標軸シート②</u>
	○ 縦軸の条件を変えて、座標軸上にもう一度 A~I を並べてみよう。	5 縦軸の条件を変化させ、座標軸上に A~I を再度位置付ける。	・ 縦軸を新たな視点「10年後に効果あり：高⇔低」とし、財政を考える際の考え方を広げる。	<u>座標軸シート③</u>
○ 緊急性や持続可能性を総合的に踏まえながら、グループでダイヤモンドランキングを並び替えてみよう。	6 座標軸で変化したことをもとに、グループでダイヤモンドランキングを並び替える。	・ ダイヤモンドランキングの軸を曾於市の財政にとっての「ベストミックス」とする。	<u>ミニボード</u>	

<p>まとめ 7分 一斉</p>	<p>○ クラス全体で共有しよう。</p> <p>○ 次時はこれまでの活動を踏まえ、少子高齢社会に対応できる財政についてまとめをしよう。</p>	<p>7 各班が並び替えたダイヤモンドランキングについてクラス全体で共有する。</p> <p>8 次時の連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> さらなる合意形成のために6班すべてを発表する。聞く側は効率と公正のバランスはよいか考えて聞く。 時間の関係等で、発表できない班は次時の導入で発表する。 	<p>発表班のランキングを示したホワイトボード (大)</p>
--------------------------	--	--	--	---------------------------------



オ 本時の評価

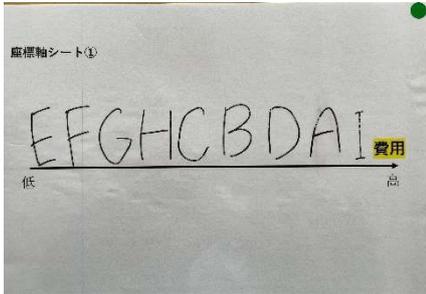
- (ア) 財政が、人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを、圏域内の統計資料などの根拠をもとに理解できた。〈知識及び技能〉
- (イ) 財政の確保と配分という観点から、少子高齢社会の特色を踏まえて、財政の現状や持続可能性について意見交流できた。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (ウ) ダイヤモンドランキングや座標軸をもとに、財政に関する討議で交流し、財政の持続可能な社会の形成に生かすことができる部分を見出すことができた。〈学びに向かう力、人間性等〉

3 まとめ

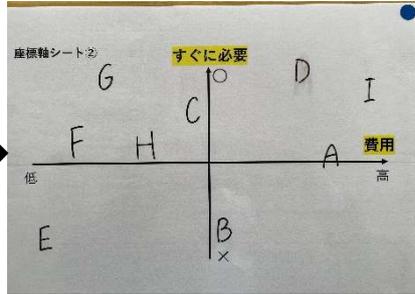
(1) 主体的・対話的学びにより学習を深めるための思考ツールの活用について

次の座標軸シート①～③は、研究授業当日、ある班が作成したものである。(A～Iは参考資料Iを参照)

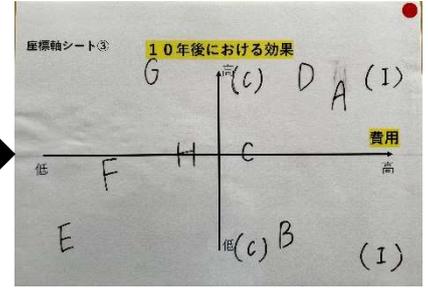
座標軸シート①



座標軸シート②



座標軸シート③



座標軸シートで、思考を揺さぶると以上のような変化が見られた。座標軸シート③より、この班は話し合いの過程でも、すぐに必要なものは10年後における効果も生み出すと判断していた。判断が固まらないものについては()で示していた。このような答えが分かれる話し合いも、一つの成果であると考えられる。

以下に示すのは、別の班のダイヤモンドランキングの変化である。



前時の終わりと、本時の終わりでは大きな変化が起きたことがわかる。全ての班でこのような変化が起きたわけではないが、グループ活動の手助けをする思考ツールとテーマがしっかり組み合わせられれば、社会科の授業は楽しく、意味のあるものになるという可能性が示されたと思う。



数回の指導案検討会の中で、社会科の授業に思考ツールを用いるということについて賛同は得た。また、「何の目的で用いるのか」「どんな思考ツールを用いるべきか」「思考ツールは組み合わせこそ意味をなすのではないか」「対立軸をどうすべきか」「比較対象は適切か」「どのタイミングで出すか」など多くのご意見をいただいた。そのすべてのご意見や助言を授業者自身、完全に消化できないまま研究公開を迎えてしまったが、思考ツールを組み合わせた授業は生徒たちにとって楽しいものであると実感できた。今回得たヒントを追究し、社会科の授業を充実させていきたい。

(2) 学びを深めるための地域素材の活用について

- ・ 具体的なものと抽象的なもの、
 - ・ 資料がすぐに見つかるものといくつかの資料をあたるべきもの、
 - ・ 実際に取り組んでいるものと生徒が考えたもの、
 - ・ 身近でイメージしやすいものと、しづらいもの、
- これらが混在している。

思考ツールの活用とともに最後まで課題となったのが、地域の捉え方や各具体例の規模の大きさである。生徒が学習する際に調べやすいもの、生徒に獲得させたい知識・思考に近づくものを両立して選定することは困難を極めた。



【参考資料Iに同じ】

当初想定したよりも、都城定住自立圏との関わりは薄まってしまったが、曾於市を含めた圏域内の多くの資料から教材研究することは引き出しを増やすことにつながり、地域を理解するにはよい作業となった。思考ツールを用いる際には、多様な考え方が出てくることが予想されたため、生徒の議論に対応していけるだけの素材を集める必要があった。また、財政と福祉を考えるために、内容で比較する、費用で比較する、他市町と比較するなど、アプローチの仕方がたくさんあることも指導案検討会や授業研究を通して勉強になった。調べればたくさん出てくる素材を、生徒が自分自身で探し出して追究する方法や、どのテーマから調べさせるか、使いたい資料を3か年の中で分散して使っていく、といったことに関し、今後研鑽を積んで効果的な方法を探っていきたい。

(3) おわりに

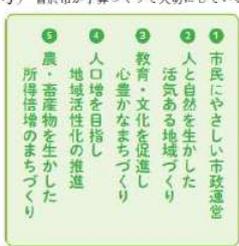
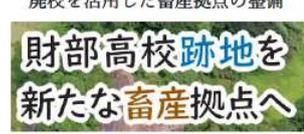
ここまで記したことは、あくまでも一授業者の視点です。まだまだ発展途上にあり、まとまりのない報告になったこと、どうかご容赦ください。公開授業の事後アンケートから収穫がありました。それは、「社会保障が自分に関係する」と考える生徒が増え、社会保障や年金を考える際に、勤労・納税・人口構成を結びつけて考えることができるようになった生徒も増えたことです。また、私自身も次の地理学習でこれをやりたい、明治時代の学習で都城とのつながりをやってみたいなど、多くのアイデアが湧いてきました。次に活かせるように努めてまいります。起案から研究大会当日まで支えてくださった方々、ご多忙の中にもかかわらず個別にアドバイスをくださった方々、研究公開に参加された先生方、本指導案をベースに授業をされましたと連絡をくださった方々、人とのつながりのありがたさについて身をもって感じる1年間でした。すべての方々に感謝し、振り返りの報告とさせていただきます。

【参考資料 I】 単元を通して使用したワークシート

ワークシート 少子高齢化に対応できる歳出とは？

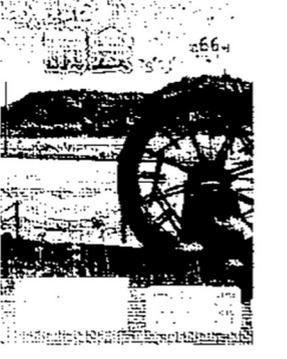
3年()組()番 氏名()

目標: 「曾於市の少子高齢社会と地方創生に対応できる財政のバランスを考えよう。」(計3時間予定)

<p>曾於市について</p> <p>① 【課題1】(少子高齢化・人口減少)</p> <p>② 【課題2】(経済の衰退・財政への影響)</p> <p>③ 【協定】都城定住自立圏</p> <p>曾於市の予算 268億7500万円 (都城市の予算 869億6000万円)</p> <p>(参考) 曾於市が予算づくりで大切にしていること</p> 	<p>A【日本初の取組】</p> <p>廃校を活用した畜産拠点の整備</p> 	<p>B【効率のよい行政へ】</p> <p>新市庁舎の庁舎整備事業</p> 	<p>C【移住・定住対策】</p> <p>市が新しい住宅地づくり(宅地分譲整備事業)</p> 
<p>(参考) 県境(都市市側)にある曾於市の看板</p> 	<p>D【子育て環境の充実】</p> <p>保育施設等に対して子ども・子育て支援給付費を出すことで、子育て世代の費用負担を減らす</p> 	<p>E【通学・散歩も安心】</p> <p>マインドロードに街灯整備</p> <p>志布志線 廃線跡 距離 約10km</p>	<p>F【農業を支える】</p> <p>田畑への道の整備と安全確保 (農道等維持補修工事)</p>  <p>曾於市は山林60%・耕地20%</p>
	<p>G【予防接種】</p> <p>乳幼児や子どものワクチン、高齢者のインフルエンザ予防接種の費用負担</p> 	<p>H【体育施設管理費】</p> <p>体育館や新地公園グラウンドゴルフ場</p> 	<p>I【ふるさと納税の活用】</p> 

【参考資料Ⅱ】調べ学習で示した資料（広報表紙を使用しているため、画像を一部加工）

～ 調べ学習のヒントとなるサイト ～

<p>市報そお 5月号</p>  <p>まずは これから！</p>  <p>未来に向けて備える予算</p>	<p>市報そお 最新号</p>   <p>資料までお返ししました</p>
<p>議会日より 最新号</p>  	<p>その他 参考になりそうなページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曾於市の予算について  ○ 曾於市の予算と仕事  ○ 広報都城4月号 

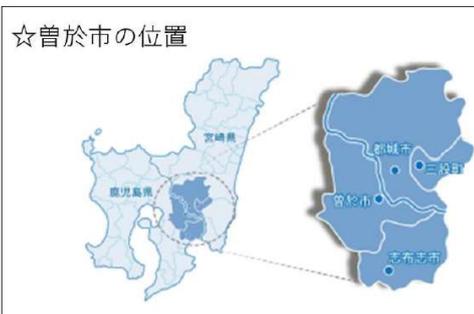
【参考資料Ⅲ】曾於市の状況から、財政を理解するために提示した資料
(第3次都城広域定住自立圏共生ビジョンなどから抜粋して作成)

☆都城定住自立圏内の人口

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少割合	生産年齢	高齢化率
曾於市	35198	3766	17187	14245	10.7	48.8	40.5
都城市	160126	22275	86605	50573	13.9	54.1	31.6
2市合計	195324	26041	103792	64818	13.3	53.1	33.2

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少割合	生産年齢	高齢化率
曾於市	35198	3766	17187	14245	10.7	48.8	40.5
都城市	160126	22275	86605	50573	13.9	54.1	31.6
志布志市	29732	4164	14810	10759	14.0	49.8	36.2
三股町	26043	4474	14571	6998	17.2	55.9	26.9
定住自立圏	251099	34679	133173	82575	13.8	53.0	32.9

☆曾於市の位置



☆都城定住自立圏



☆圏域人口推移と将来推計（人）

